

楽習フェスタ2013 「第15回 生涯学習フォーラム」 「まつどおしごとデパート」

聖徳大学生涯学習研究所は、6月22日(土)、23日(日)の2日間にわたり、地域と大学との交流および学生と地元企業の協働の機会を創出することを目的に、「聖徳大学楽習フェスタ2013ー第15回生涯学習フォーラム・まつどおしごとデパート」を開催しました。

23日に行った生涯学習フォーラムは、「人が変わる。地域が輝く。～生涯学習の未来を語ろう～」をテーマに掲げ、千葉大学名誉教授の明石要一先生による「子どもに多様な体験をさせよう～ガリ勉じゃなかった人はなぜ高学歴・高収入で異性にモテるのか～」と題した記念講演を実施しました。続いて、「市民と共にまちづくり」「女性とまちづくり」「子育てタウン～地域体験で親子が育つまちづくり～」の4つの分科会に分かれ、それぞれの専門家と参加者が熱心に意見を交えました。

また、昨年に本学10号館で開催し、大盛況だった子どもの職業体験イベント「おしごとデパート」を、今年は伊勢丹松戸店に場を



講演する明石要一先生



TV局リポーターを体験



風船屋に挑戦

移して実施しました。22日、23日の2日間ともに、朝から長蛇の列ができるほどのにぎわいを見せ、両日で約3,500人(うち子どもは約1,500人)の来場者を迎えました。子どもたちにリアルな職業体験を提供することを目的に、百貨店のみならず、地元企業に協力いただき、さまざまなブースを設置しました。テレビ局員、郵便局員、デパートガールをはじめ、警察官、消防署員、職人などに変身した子どもたちの一所懸命な姿に、買い物客の顔もほころんでいました。



スーパーマーケットでの試食販売を体験

本事業は本学児童学科の神谷明宏准教授と齊藤ゆか准教授が指導にあたり、児童学科および生涯教育文化学科の学生ボランティアが約100名、企業・行政参加者が約40名、本学職員10名に伊勢丹従業員を加えた、まさに産学官連携事業となりました。

今後も、生涯学習研究所は子どもから大人まで世代を超えた地域活動を積極的に展開していきたいと思っております。

(生涯学習研究所 助手 松澤 萌)